

令和2年度山形県農業普及活動外部評価結果について

1 普及指導活動の体制について（組織・人員体制、普及指導員の資質向上の取組み等）

①評価点

- ・ PDCA サイクルを意識し、常に「向上」することを旨としている点
- ・ I T の活用、J A との協力体制、講習会や草の根的な啓蒙活動、年何回も打ち合わせをして外から組織を変える活動など、普及活動に対する想いと工夫を感じた。

②提案・意見

- ・ もう少し経営面をクローズアップして若手農業者に支援して欲しい。
- ・ 人材育成のため普及指導員の研修を引き続きしっかり取り組んでほしい。

③意見を受けての改善点

- ・ 高齢化の進行による担い手の減少等、早急な対応が求められており担い手の育成・確保については農林水産省でも普及事業の取り組むべき重点項目に掲げている。本県では、「第4次農林水産業元気創造戦略」(R3～R6)の中で、「人づくり」として位置づけ、意欲ある多様な担い手を育成・確保するプロジェクト活動を展開する。
- ・ 普及指導員は、現場ニーズに対応した課題解決を行う上で、担当する専門分野に加え、関係機関との連携による地域農業の課題解決を図るコーディネート能力が必要である。これらのスキル向上を図るため、経験年数や職務に応じた研修を実施しており、今後も継続していく。

2 普及指導計画について

【評価】 A：優れている B：妥当である C：見直しが必要

(1) きゅうり大規模園芸団地の若手生産者育成による産地拡大【A：6名】

①評価点

- ・ ICTによるモニタリング、パンフレット作製によるデータの「見える化」に取り組んだことは大変良い。若い世代に分かりやすい指針となる。
- ・ スマートフォンを活用して丁寧に技術指導した様子が伝わってきた。毎週のモニタリングとフィードバックを継続し、若手とベテラン双方にメリットとなっている。

②提案・意見

- ・ 今後は、こうしたデータを見える化し、ベテランと若手の比較などデータをどう活用するかがポイントとなる。次年度は3年目なので、CO₂制御による比較実験など新たな取組みも期待したい。

③意見を受けての改善点

- ・ 令和3年からの新たな取組として、大規模園芸団地に環境モニタリング機器を複数台導入する。作成した「成果概要パンフレット」を活用しながら、産地の若手生産者と篤農家のデータをもとに勉強会を実施し、環境制御の知識の向上と収量向上を図っていく。
- ・ また、自動換気装置の設置による省力化の実証も行っていく。

(2) 1億円の産地の形成に向けた「啓翁桜」の産地強化 【A：4名、B：2名】

①評価点

- ・出荷本数が減っても、販売金額はさほど下がらなかった。品質が良かったことが市場での評価に生きた。意識レベルアップがされた成果だろう。
- ・「1億円の産地」JAさがえ西村山と西川町が互いに技術と売上向上する取組みは評価できる。プロジェクト会議により支援がスムーズになっている。

②提案・意見

- ・法人化を進めるにあたってそのメリットを活かした生産・販売戦略を練ってほしい。
- ・市場調査について詳細な分析があってもよかった。

③意見を受けての改善点

- ・生産面では、法人化により雇用が確保しやすくなるので、規模拡大を誘導する。
- ・法人化した生産者もJA等の生産組織の一員として出荷することを前提としており、販売戦略は生産組織と同じ方向で取り組むこととしており、JAでは平成26年から中国、東南アジアへの輸出に取り組む、今後も輸出の増加が見込まれる。
- ・市場調査では、出荷時期ごとに求められている出荷本数や規格等について、情報収集しており、それらを分析し、現地指導活動に活かしていく。

(3) 北村山地域農産物のブランド力強化のための加工品開発・販路拡大支援【A：3名、B：3名】

①評価点

- ・地元の原料と新しい技術によって、商品化されたことは評価できる。
- ・カットフルーツの商品化に成功したことなど、成果目標はかなり達成されていると考えられる。えごまのパウダーにおいても同様である。

②提案・意見

- ・加工はコストがかかるイメージ。投資の経営的効果が資料で分かると良い。経営的な提案もあわせて支援いただきたい。
- ・開発した商品の売れ行き動向などアフターフォローもして欲しい。

③意見を受けての改善点

- ・開発しようとする商品によって必要な施設、原料、販路が大きく異なるため、経営指標のように経営的効果を一般化することは難しいが、それぞれの事業に対して、経営的な試算を実施し、見込まれる経営的効果を可視化し、加工部門導入や商品開発の判断材料を示しながら支援する。
- ・開発中または販売開始された商品共に、消費者ニーズを取り入れ、より売れる商品としてブラッシュアップするため、小売店バイヤーとの意見交換を行う場を設けることを新たに計画に盛り込み支援する。

(4) 攻めの米づくりによる最上産米の安定生産

【A：5名、B：1名】

①評価点

- ・ブランド米だからこそその安定生産、品質向上が求められる中、しっかり地域ぐるみで取り組み適正管理、指導が行われている。
- ・ブランド米の生産者の栽培意識の向上に取り組んでいる。ブランド力はこうした生産者一人一人の意識によることを改めて実感した。こうした草の根活動の積み重ねが今の山形県のブランドを作っている。

②提案・意見

- ・昨今のブランド米の競争激化の状況を鑑み、ブランド米の競争力保持のため、高品質化維持に加え、さらなる高品質化できる指導を、行政やJA等と連携し続けてもらいたい。

③意見を受けての改善点

- ・令和3年度からスタートする新・米づくり運動と連携し、最上産米の高品質化に向け、引き続き支援する。
- ・特に課題となっている土壌還元対策、カメムシ対策では重点指導地区を設置し、取組効果の見える化を図っていく。

(5) 流通拠点を核とした高品質生産によるえだまめ産地強化

【A：5名、B：1名】

①評価点

- ・共同選果施設の稼働に並行して産地強化を実施したことは評価できる。
- ・導入品種の技術指導は大事だと考えます。品種のバトンを上手くつなげられるように指導されていて評価できる。

②提案・意見

- ・稼働率をさらに高める工夫と、販売先などの確保も今後の課題を考えられる。
- ・新規参入者を増やすにはどうしていきべきかが課題。

③意見を受けての改善点

- ・選果場の稼働率を高め、共同選果の体制整備が産地強化に結びつくように、品種導入を図りながら、JAと連携した産地育成を図っていく。
- ・水田を利用できる園芸品目として、水稻生産者を中心とした新規栽培者の掘り起こし活動（研修会等）を継続して行う。

(6) 新規栽培者支援による「啓翁桜」の産地拡大 【A : 1名、B : 5名】

①評価点

- ・まだまだ産地としては小さいが、品質を良くして量を増やしていけば、これからの伸びが期待できる。
- ・置賜の課題である冬の労働力と土地利用型農業を解決する啓翁桜を産地化することで効果が期待できる

②提案・意見

- ・冬場に収入が上がれば、面積も参入者も増えるだろう。組織作りに指導を続けてほしい。
- ・現在出荷している生産者が今後の栽培者獲得のカギ。しっかりと支援いただきたい。

③意見を受けての改善点

- ・新規栽培者が出荷を始めることで、組織活動の強化も必要になってくると思われる。将来の組織の活動体制なども考慮しながら指導を行う。
- ・これまで、他産地で新規生産者が出荷量を増やしたタイミングで出荷品質が落ちて産地の評価を下げ、単価が下落してしまったという事例がある。新規栽培者の成功が、今後の産地の拡大に向けた鍵になると思っているので、この3年間では、新規栽培者の出荷指導に重点をおき、収量の確保、単価の向上、モチベーション向上を目指している。

(7) 庄内砂丘メロンの生産振興 【A : 2名、B : 4名】

①評価点

- ・現存の庄内砂丘メロン産地の問題を手遅れになる前に改善できるよう企画したのは評価できる。
- ・H30～R2で結果を求めるの難しいが、この3年間で蓄積した情報を精査し、生産者に提供していただければ数字を伸ばせるだろう。生産コストに見合った収入となるよう期待する。

②提案・意見

- ・3年間で蓄積した情報を精査し、生産者に情報提供していただければ数字を伸ばせるだろう。ここで終了しないで支援の継続を望む。
- ・多収栽培は、今後の産地維持の重要なテーマであるため、今後さらに産地全体の課題としてさらに掘り下げて活動してほしい。

③意見を受けての改善点

- ・令和3年度から2ヶ年の普及活動計画とし、継続して支援を行う。
- ・多収栽培の現地での実証を挙げており、技術の産地全体への波及を目指す。

(8) 伴走支援によるトップランナーの育成

【A：5名、B：1名】

①評価点

- ・農地交換、集約へ向け、ていねいな説明と誠意、様々な助言が必要。仕組みが分かる第三者の提案で引き続き頑張ってもらいたい。
- ・農業「経営」を行うための研修、集約化の重要性の啓蒙など、地道な取り組みは評価できる。

②提案・意見

- ・農業「経営」を行うための研修、集約化の重要性の啓蒙など、地道な取り組みは評価できる。「気持ち」や「文化」「慣習」の問題は一夕一朝で変化させさせるものではない。総合評価のBの意味は、あと1年間、さらなる地道な努力を継続して変化への道筋をしっかりとつけてもらいたいという期待を込めたものである。

③意見を受けての改善点

- ・法人役員の中には、農地交換による農地集約化に前向きな方も出てきており、今年度は役員会において自ら率先して実行することを提案する農業者もいたが、親世代の反対によって今年度は実現しなかった事例がある。
- ・そのために令和3年度は、構成員全員にアンケート調査を実施し、各構成員の実情や心情の把握に努め、その結果を踏まえて枝番管理解消に向けた方向性を検討する場を設けるなどしながら、普及活動に取り組んでいく。

3 総評

①評価点

- ・若手の育成、冬期間の収益の確保が法人化や雇用創出のきっかけになったりするのではないかと考えている。
- ・若手普及指導員がデータを数値化して見える化することで、熟練農家が「感」でしていたものが数字で見るともっと改善できるのではないかと気づき生まれ、視点が変わり、産地全体の底上げが図れるのではないかと期待している。

②提案・意見

- ・若者はスマートに農業をしていきたいと思っているので、熟練農家のノウハウを見える化して技術の定着、底上げを図る工夫が大事。活動が、令和の人たちの背中を押してくれるのではないかと期待している。
- ・3年で結果を出すのは大変。当初の目標設定に対して、1年目、2年目の結果を振り返り、失敗の共有もしてもらいたいのではないかと期待している。失敗の共有から次は何をしていくべきかを検討することが大事。

③意見を受けての改善点

- ・委員の皆様からいただいた貴重な意見を次年度の普及計画に反映し、今後も県民視点、現場主義、対話重視を理念に、本県農業振興のために地域に密着した普及活動を行っていく。
- ・また、関係部署との連携を強め、農業振興を図っていく。